

あいち自動車産業イノベーションプラン（仮称）の概要（課題と対応）

中堅・中小企業の課題

HV・PHVを中心に、自動車部品には、軽量化、小型化、高耐久化に加え、価格低減が求められるため、既存技術の高度化や製造工程の合理化が必要となる。
また、自動車メーカーの国内生産が縮小すれば、国内メーカーだけを対象とした経営は困難になると見られる。

スマートグリッドにおける蓄電池としての役割や、ITSにおける情報端末の役割など、走って止まるだけではない新しい概念としての自動車が重要となる。
自動車の役割の変化に伴う新たなソフト産業の拡大が期待できるが、それに対応するためには、新たな技術が必要となる。

社会環境の課題

自動車の電動化に対応した新しい周辺産業（モビリティビジネス・スマートビジネス）が拡大するためには、次世代自動車の一層の普及が期待される。
普及促進のための充電インフラ等を中心とした、社会インフラの充実が必要となる。

国内にガソリンエンジン部品の生産が残っている間に既存技術に磨きをかけ、新分野・新市場の開拓に一步踏み出す中堅・中小企業の「挑戦」が必要である。
意識を変える → 行動を変える → 小さな成功例をつくる

次世代自動車を率先して普及させ、全国に先駆け、自動車周辺の新ビジネスの育成・振興を図ることが必要である。

自動車部品製造の中堅・中小企業の目指す方向

従来の自動車部品の生産に軸足をおきながら、既存技術のたて・よこ展開を図る。また、新製品開発や海外市場の開拓により、市場の拡大を目指す。

- ◎自社の技術力をブラッシュアップし、自動車の進化（次世代自動車）に対応する。（既存技術のたて展開）
- ◎自社の技術力を応用し、他の成長分野（航空・宇宙、ロボット、環境・エネルギー等）に進出する。（既存技術のよこ展開）
- ◎自社の技術力を活かし、異業種企業等との連携により、新分野に対応した新製品を開発する、または、既存製品の強みを活かして、海外の新市場への進出を目指す。（新市場の拡大・開拓）

次世代自動車を活用した新しい社会の形成

次世代自動車の普及に伴う社会環境の変化に対応し、安心・安全で快適な新しい自動車社会の実現を図る。

- ◎次世代自動車の普及を加速するため、購入・使用に対するインセンティブの充実と社会インフラの整備を促進する。
- ◎次世代自動車を核とした低炭素交通システム、エネルギー利用最適化システムなど、スマートグリッド、スマートシティに対応する社会基盤整備を推進する。
- ◎高齢者・障害者等でも安全かつ快適に移動できるスマートモビリティ（超小型2人乗りEV、事故をおこさない自動車など）の開発を推進するため、啓発活動や社会実験を実施する。

個別企業を対象とする政策対応

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 新技術の開発支援 | 既存技術の高度化支援 | 人材の育成・供給 |
| 新市場の開拓支援 | 企業連携の促進 | 新分野企業の誘致 |

社会環境整備に向けた政策対応

- | | |
|---------------|-------------|
| 購入補助・減税の検討 | 社会インフラ整備の促進 |
| 世論の形成・喚起 | 社会実験の推進 |
| 自動車周辺新ビジネスの育成 | |